

2016年3月18日

本多通信工業株式会社

取締役会の実効性評価

当社は、より実効性の高い取締役会をめざして、このたび、試行的な要素を含め、「取締役会の実効性」を自己評価しました。今後は、充実に向けて課題に取り組むとともに、評価方法のブラシアップに努めます。

1. 評価の方法

- ① 3名の社外役員に代表取締役社長および常勤監査役を加えた会議体にて、評価方法案を策定し、取締役会の賛同を得て、全取締役・全監査役へのアンケートを実施しました。
- ② アンケートは、“取締役会は意思決定機関として機能しているか”等の設問に対し、“できている”から“できていない”までの5レベルで取締役会メンバーそれぞれが評価し、その判断理由を記す内容です。
- ③ 取締役会にて、本アンケートの集計結果に基づいて、当社の取締役会の実効性を自己点検するとともに、課題を抽出し、今後の取り組みを明確化しました。

2. 評価結果

- ① 事業範囲、規模等に照らして、相応の実効性が確保されていると評価しました。
- ② とりわけ、社外役員への事前且つ簡潔明瞭な情報提供によって、取締役会はオープンで活発な対話が実現しています。

3. 今後の取り組み

- ① 中長期視点の経営戦略の議論を深めること、取締役会メンバーの多様化、および常勤役員の一層の研鑽が、今後の課題として抽出ができましたので、実効性の進化に向けて取り組みます。
- ② 実効性の評価方法につきましては、各員による評価レベルにバラツキのある設問がありましたので、設問内容の定量性を高めるなど、継続的に改善を図ります。

以上